

## シンポジウム開催の趣旨

地球が円い形をした太陽系の惑星の一つであることを人々が認識しはじめたのは大航海時代以降であろうか。それでも地球上には無限に近い大地と海があるような意識がどこかに残っていたかもしれません。いまや航空機を使えば 2 日ほどで世界一周さえできます。近年になって人々は否応なくこの限られた狭い大地の上で住むしかないという現実を共通に認識するようになりました。しかも、人口は今なお増え続けています。

西太平洋赤道付近の海水温が日本の気候に大きな影響を及ぼし、チェルノブイリや福島放射性物質は国を超えて思わぬところまで飛散し、主に人間活動から排出される温室効果ガスは大気に拡散して地球上のあらゆる所に行きわたり、国境を越えて深刻化しています。また、地域紛争によって生じた大量の難民は国を超えて移動し、大国の経済の良し悪しは全世界の国々の経済に直ちに大きな影響をもたらします。このように、一国では解決できない深刻な問題が山積していることも共通認識になっており、今後、地球規模のさまざまな問題を解決するには、みんなが国を超えて協力していくしか方法がありません。

最近よく SDGs（エスディージーズ）という言葉が新聞や雑誌で目にするし、テレビやネット上でも見る機会が多い。SDGs は”Sustainable Development Goals”（持続可能な開発目標）の略であり、2015 年 9 月に国連総会の場で採択された 17 項目からなり、2030 年までに達成する目標とされています。人類共通の様々な問題に対してすべての国が協力して対処しようとするものです。17 項目には、1. 貧困、2. 飢餓、3. 健康と福祉、4. 教育、5. 男女平等、6. 衛生（トイレ）と水、7. クリーンエネルギー、8. 働き甲斐と経済成長、9. 産業の技術革新、10. 平等社会、11. 住み続けられる町、12. 作る・使う責任、13. 気候変動、14. 陸の豊かさ、15. 海の豊かさ、16. 平和と公正、17. パートナリシップで目標達成、が掲げられています。農学と直接的、あるいは間接的に関係する項目も多いことがわかります。日本国内でもすでにいろいろな取り組みが始まっています。

前 2 回のシンポジウムでは、主に 2 の食料問題を取り上げました。今回は、14 と 15 の陸と海の豊かさを取り上げます。山（森林）、平地（里山・農地）、海のそれぞれの豊かさ、およびそれらを結ぶ水の流れに沿った自然環境の豊かさをどのようにして守っていくのかについて、現状と今後の問題点を解説していただきます。基調講演を日本のサステナビリティ学の草分けである東京大学の武内和彦特任教授にお願いしました。また、乾燥地の問題を岡山大学の吉川賢特任教授に、森林の役割を国立研究開発法人森林研究・整備機構の黒川絃子主任研究員に、森から海までのつながりを北海道大学の中村太士教授に、海の環境保全について東京大学の八木信行教授にご講演いただき、最後に総合討論を行います。

聴衆の皆様には活発な質疑にご参加くださいますようお願いいたします。

平成 30 年 3 月 10 日

(公財) 農学会会長 長澤寛道